

10-4 松本城クイズ40 川島浪速・鳩山春子・河原操子について(解答・解説)

松本城管理事務所研究室

1、鳩山春子は、「・・・信州の松本、そこが私の生まれた所であります。それは文久元年（1861）3月23日でございます。・・・私は実に7人目の末子であったのです。・・・」と「我が自叙傳」で述べている。信州松本のどこの町に生まれたのか。次の中から一つ選びなさい。・・・③



松本藩士渡辺久右衛門（維新後は多賀務と改名）の末子として袋町の屋敷で生まれた。

2、明治10年（1877）、官立竹橋女学校は西南戦争により廃校となったが、文部省は、竹橋女学校の生徒のために創立当時の師範学校の中に特別英語科を設けたので、春子もそこに入学することとなった。明治11年7月特別英語科を首席で卒業した。9月には師範科本科に入学して、12年5月文部省から派遣されて米国フィラデルフィヤ師範学校に留学となったが、諸事情により中止となった。在学中結婚の話があり、明治14年11月結婚した。さて、誰が結婚の相手であったのか、次の中から一人選びなさい。・・・②

鳩山和夫との結婚の話があり、推薦したのは神津専三郎であった。鳩山の希望は英語の出来る人であった。明治14年11月結婚式を挙げた。長男一郎（総理）・二男秀夫（民法学者）の二児を生む。現在の政治家鳩山由紀夫・邦夫はひこ孫にあたる。

3、こうして嫁した後、夫のために法曹政界に内助を尽くしつつ、自らは本邦口口教育の為に貢献し、明治19年宮川保全と共立女子職業学校を創立し、昭和3年共立女子専門学校の創立にあたっては校長となり、同11年の共立女子高等学校が新設されたとき同校校長を兼ねた。学園は三校経営したが、三校の校長として3000名の生徒の教育にあたった。口口に入る言葉を、次の中から一つ選びなさい。・・・④

日本の女子教育の先駆者である。中国の女子教育の先駆者は河原操子である。二人とも松本藩士の子であった。

4、河原操子（かわはらみさこ）は、藩士で藩儒を代々つとめた河原忠（としな）の一人娘として生まれた。明治24年（1891）16歳で師範学校に入学した。どこの師範学校であったか、次の中から一つ選びなさい。・・・①



明治24年長野師範学校に入学、同26年3月卒業、続いて明治29年東京女子高等師範学校に入学したが病気のために中退して、24歳の時に長野県立高等女学校教諭として赴任した。東京女子高等師範学校は、現在お茶の水女子大学。

5、明治33年夏、長野県立高等女学校に勤務中、女子教育に尽くした権威者が諏訪が来ることを知り、25歳の操子は父の許しを得て、師範学校時代の校長渡邊敏（はやし）校長の紹介で会うことができた。「・・・清国の女子教育に従事したいという希望・・・」を述べ、力を貸すことを約束された。このとき会った女子教育の権威者とは誰のことか、次の中から一人選びなさい。・・・②

明治33年（1900）操子25歳の時、諏訪湖畔で、講演のため訪れた下田歌子と面会することができた。この時の紹介者は長野師範学校時代の校長渡邊敏であった。女高師の在学中考えていたこと——清国の女子教育に従事したいことという希望——を申し述べたところ、理解と同情を得て、もし折があれば力を貸すことを歌子は約束した。

6、明治35年（1902）9月清国口口の務本（ウーベン）女学堂教師として赴任した。この事も5に述べた人物の斡旋によるところ大であった。務本女学堂は純然たる女子教育を目的として設立された学校で、東洋人の手によって経営された清国における最初の女学堂であった。この務本女学堂は清国のどこにあったか、次の中から一つ選びなさい。・・・・・・①

明治35年27歳の時、上海の務本女学堂教師として赴任。8月26日横浜港出航、9月3日上海に着く。この件についても下田歌子の斡旋によるところ大であった。

7、内蒙古のカラチン王は、王室に女学堂を設け日本風の女子教育をしたいので日本の女教師を紹介して欲しいと懇望された。白羽の矢は務本女学堂でその実績が知られていた操子に立てられた。1年で務本女学堂を辞して、明治36年11月北京に着き、入蒙の準備をした。この時2週間公使館内に滞在して、旧松本藩士らに面会して話を聞き準備を整えた。12月21日着、28日開堂式、30日から授業開始となった。2年後後任に託して帰国した。北京で面会した松本藩士とは誰か、次の中から一人選びなさい。・・・・・・②

明治36年（1903）11月22日、蒙古カラチン王妃より迎えの役人らと北京に向った。同36年11月29日北京に着き、内田公使より入蒙についての官命を受ける。それより二週間に公使館内に滞在して、旧松本藩士の川島浪速らに面会して話を聞き入蒙の準備を整えた。川口五郎は、明治39年中国海南島で理科教育に当たった。黒田十兵衛は、藩砲術師範。



8、写真左の人物は、慶応元年（1865）に松本藩士の長男として北馬場で生まれた。この人物は誰か、次の中から一人選びなさい。・・・・・・④

松本藩士川島良顕の長男として北馬場で慶応元年（1865）に生まれた川島浪速である。23歳の時中国大陸に理想国建国をと東京外国語学校で中国語を学んだ。通訳として従軍したり、無血開城の説得に当たったり、清国の警察官を養成する責任者に就任したりした。

9、23歳の時に口口大陸に理想国建設をと、東京外国語学校で外国語を学んだ。中途退学して大陸に渡り、徒歩での横断を計画したが病のため帰国した。その後大陸との戦争時には通訳として従軍する。これは福島安生陸軍少尉が呼んだものであった。口口に当てはまる言葉を、次の中から一つ選びなさい。・・・・・・③

23歳の時中国大陸に理想国建設を求めて大陸に渡っていった。やがて清王朝の肅親王と親しくなり義兄弟の契りを結んだ。

10、大陸を占領した連合軍が皇族などに砲撃をしようとしたが、彼の働きで無血開城となった。警察官を養成する責任者にも就任した。この頃から大陸王朝の王と親しくなり、義兄弟の契りを結んだ。王には21人の王子と17人の王女がいた。そのうちの14王女が、写真の人物である。養女として、松本高等女学校にも通い、また「男装の麗人」などとも呼ばれていた。誰であるか、次の中から一人選びなさい。・・・・・・②



肅親王の王女東珍姫が養女となったのは7歳の時である。この東珍姫が、川島芳子と命名された。肅親王には5人の妃（きさき）との間に21人の王子と17人の王女がいた。そのうちの14王女が芳子であり、正妃の長男（第1王子）の子（姪にあたる）が廉子である。二人が養女となった。15歳の時松本高等女学校2学年に編入。その後の芳子は、清朝の再興を図ろうと中国国内で活躍した。昭和20年中国に反抗を画策したとして国民政府軍に逮捕され裁判の結果、反逆者として昭和23年3月25日41歳で処刑された。川島浪速夫婦と芳子の墓は蟻ヶ崎の木沢正麟寺に葬られている。「男装の麗人」とも「東洋のマタハリ（女スパイ）」とも呼ばれていた。